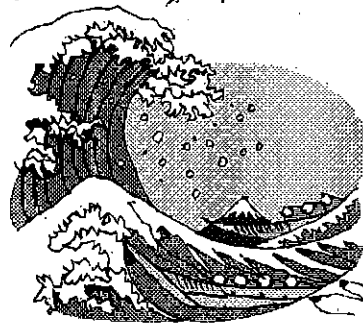


来週は台風11号、この逆境
にどう向き合うか 何んなんぞはう。
自然からさかかき 苦難なんぞはう 感謝は
受け入れます。

八月のテーマ
逆境のときこそ

逆境をどう受け止めるか



え・小島サエキチ

事

業商売に逆境はつきもので
す。辞書に「苦勞の多い境

遇。不運な境遇」『大辞泉』とあ
るように、普通は誰しも喜ばない
状態です。それでも「逆境こそ自
分を成長させてくれる」や「ピン
チこそチャンス」という言葉で、
逆境を前向きに受け止めようとい
う話をよく聞きます。

しかし、あまりに軽々しく「ピ
ンチはチャンス」と言われるのを
聞いていると、本当にきちんと受
け止めているのだろうか、という
不安に駆られる時があります。

起きてくる苦難を前向きに受け
止めようとすることは大切なこと
です。しかしそれは、逆境を乗り
越える端緒に過ぎません。それが
もし、危機的状況に直面した自身
の恐怖心を無理やり中和するため
の方便であれば、非常に危険なこ
とでしょう。

事業経営における逆境は、放置
すれば、企業の存続を脅かすもの
です。したがって、まず重要なこ
とは「必ず乗り越えるのだ」とい
う強い決意です。そのうえで適時

的確な処置を施し、その過程で、

トップはもとより社員一人ひとり
が、平常時には学び得ない様々な
ことを体験し、有形無形の実を取
ることができて初めて「逆境を活
かした」といえるのでしょうか。

ピンチはあくまでピンチである
と捉え、持てる力を総動員して乗
り越えた時、結果として「企業を
より良くするチャンスだったの
だ」ということになるのです。

では、このように逆境を企業の
発展に活かすために、日頃の生活
において、どのようなことが重要
になるのでしょうか。

第一は、自分の身に起きてくる
物事に対して、喜んで、感謝を持
って受け止めることです。

とかく逆境に陥ると、犯人探し
に汲々となり、その人を責めたり、
自分を取り巻く状況のせいにして
ちです。しかし、責めたり嫌った
りしても、何も生まれません。

日常から、何ごとも喜んで受け
止めることを心がけ、周囲に対す
る感謝の心を深める実践が、いざ
という時の「受けつぶり」に表わ

れます。

第二に、何かのトラブルに見舞
われた時、その原因を正しく見極
め、的確に対応する習慣をつける
ことです。

実務面における様々な原因につ
いては、すばやく処置して、二度
と同じ轍を踏まないようにするこ
とが求められます。

さらに大切なのは、そうした事
態を起こした真の原因を見抜くこ
とです。言い方を換えれば「この
状況は自分に何を教えようとして
いるのか」「いったい何が社に何を
教えてくれているのか」と問うこ
とです。経営者にはそうした、目

に見えないものを見つめる、深く
澄んだ心の目が求められるのでは
ないでしょうか。

事業商売におけるピンチをチャ
ンスに変えるのも、日常の実践の
積み重ねがあればこそでしょう。
日頃の小さな悩みや逆境をうやむ
やにせず、解決を先送りせずに、
自分や企業がより成長するチャン
スとして、真摯に向かい合ってい
きたいものです。